CITIZEN

2019年度（2020年３月期） 第２四半期
決算説明会

シチズン時計株式会社
2019年11月8日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

本日は、ご多用のところ、当社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
早速ですが、第2四半期決算につきまして、私からご説明させていただきます。

決算のポイント

■ 2019年度第２四半期累計実績

・時計事業
完成品：国内、中国、アジア地域が増収
ムーブメント：高付加価値品の需要低迷

・工作機械事業
設備投資の先送りにより、全地域で減速傾向

■ 2019年度通期連結業績予想

・変更なし

2 CITIZEN

まず、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

時計事業の完成品販売は、国内、中国、アジア地域が好調に推移し増収となりましたが、ムーブメント販売は高付加価値ムーブメントの需要低迷が継続していることから、全体では減収となりました。

工作機械事業は、景気の先行き懸念が設備投資の様子見姿勢が強まり、減収減益となりました。

なお、2019年度通期連結業績予想につきましては、前回公表値から変更はありません。

2019年度　上期連結業績概要

（単位：億円）	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
売上高	1,544	1,444	▲6.5%	▲ 99
営業利益	109	57	▲47.8%	▲ 52
営業利益率	7.1%	4.0%	-	-
経常利益	131	58	▲55.1%	▲ 72
親会社株主に帰属する四半期純利益	83	35	▲57.1%	▲ 47
為替レート	¥109/USD ¥130/EUR	¥109/USD ¥122/EUR	-	

為替の影響	売上高	営業利益
USD	+13.0億円	+3.0億円
EUR	+2.0億円	+0.7億円

(1円の円安 年間)

3　CITIZEN

続いて、上期　業績概要を説明させていただきます。

売上高は、主に時計事業および工作機械事業の低迷を受け、 前期比　6.5%減の1,444億円と減収、

営業利益は、前期比　47.8%減の57億円と減益となりました。

また、経常利益は、為替差損が計上されたこともあり、前期比　55.1%減の58億円、

四半期純利益は、前期比　57.1%減の35億円と、それぞれ減益となりました。

セグメント別業績推移　売上高

（単位：億円）	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
時　計　事　業	749	723	▲3.4%	▲ 25
工　作　機　械　事　業	353	308	▲12.6%	▲ 44
デ　バ　イ　ス　事　業	315	293	▲7.1%	▲ 22
電　子　機　器　事　業	97	88	▲9.4%	▲ 9
そ　の　他　の　事　業	28	29	+5.0%	+1
合　　計	1,544	1,444	▲6.5%	▲ 99

4　CITIZEN

それでは、セグメント別　売上高についてご説明いたします。

時計事業につきましては、前期比　3.4%減の723億円、
工作機械事業は、前期比　12.6%減の308億円、
デバイス事業は、前期比　7.1%減の293億円と、それぞれ減収となりました。

主要3事業の概況につきましては、後程説明させていただきます。

電子機器事業につきましては、フォトプリンターの売上は前年並みとなったものの、
バーコードプリンター、POSプリンター等が売上減となり、前期比　9.4%減の88億円と、
減収となりました。
その他の事業は、若干増の29億円と、増収となっております。

セグメント別業績推移　営業利益

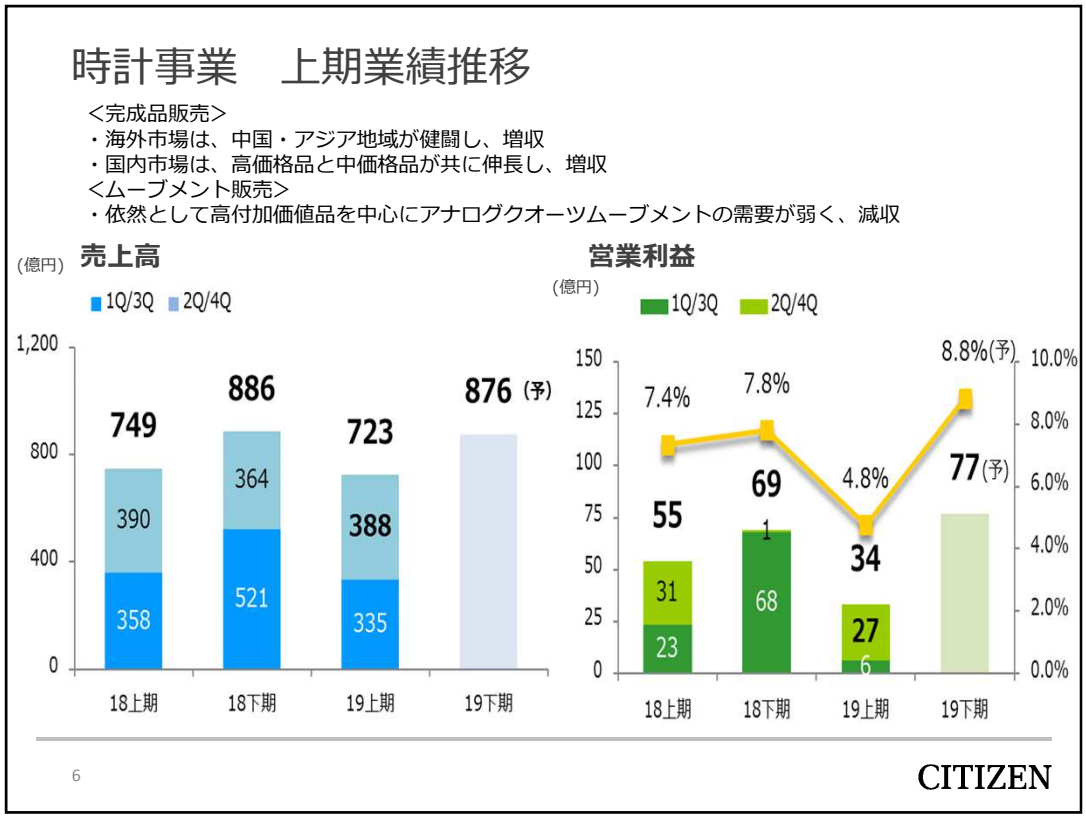
（単位：億円、％：営業利益率）	2018年度上期 実績	2019年度上期 実績	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
時計事業	55 (7.4%)	34 (4.8%)	▲37.4%	▲ 20
工作機械事業	68 (19.4%)	45 (14.8%)	▲33.3%	▲ 22
デバイス事業	15 (4.9%)	7 (2.6%)	▲51.9%	▲ 8
電子機器事業	1 (2.0%)	▲ 1 (▲1.5%)	▲167.3%	▲ 3
その他の事業	0 (2.7%)	1 (6.6%)	+153.8%	＋ 1
消去又は全社	▲ 32	▲ 31	-	＋ 1
合計	109 (7.1%)	57 (4.0%)	▲47.8%	▲ 52

5

CITIZEN

こちらはセグメント別営業利益です。
ここでは、数字の読み上げのみとさせていただきます。

時計事業は、前期比　37.4%減の34億円、
工作機械事業は、前期比　33.3%減の45億円、
デバイス事業は、前期比　51.9%減の7億円、
電子機器事業は、1億円の営業損失となりました。

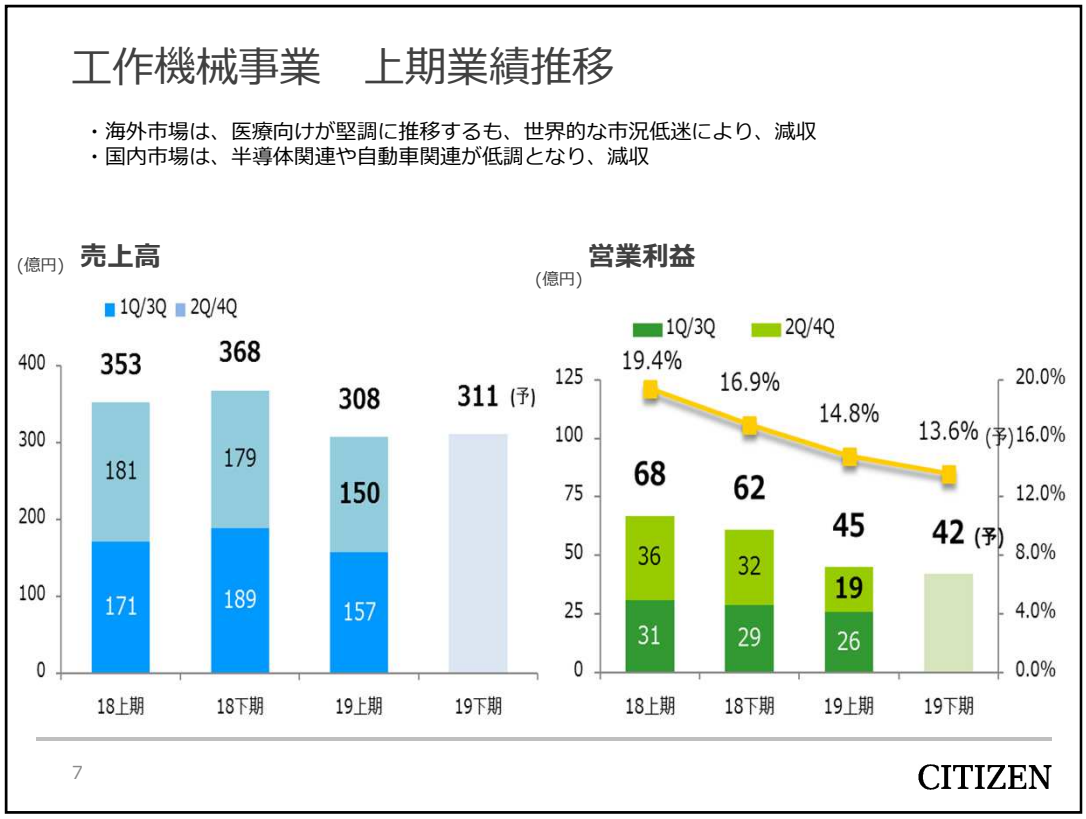


次に事業毎の概況です。

時計事業の上期実績は減収となりましたが、完成品販売につきましては、前期比で若干の増収となりました。
北米は、実店舗流通の縮小という厳しい環境にありましたが、オンライン販売を強化し第2四半期は増収に転じ、上期を通しては前年並みの売上を維持しました。
欧州は、為替の影響により減収となりましたが、現地通貨ベースでは増収となりました。景気低迷の中、「PROMASTER」をはじめとした新製品がドイツ、イタリアを中心に売上を牽引しました。
アジア地域は、台湾や香港は苦戦しましたが、シンガポール、マレーシア、ベトナム等で売上を伸ばした他、中国もオンライン、実店舗流通ともに前年を上回り、増収となりました。
国内は、「The CITIZEN」、「Eco-Drive One」など高価格帯が好調であったのに加え、中価格帯の「xC」、「PROMASTER」も販売を伸ばし、増収となりました。

ムーブメント販売は、引き続き機械式ムーブメントの需要が堅調を維持する一方で、主力のクオーツムーブメントは高付加価値品を中心に勢いを欠く展開が継続し、減収となりました。

営業利益は、主にムーブメントの売上減少の影響を受け、減益となりました。



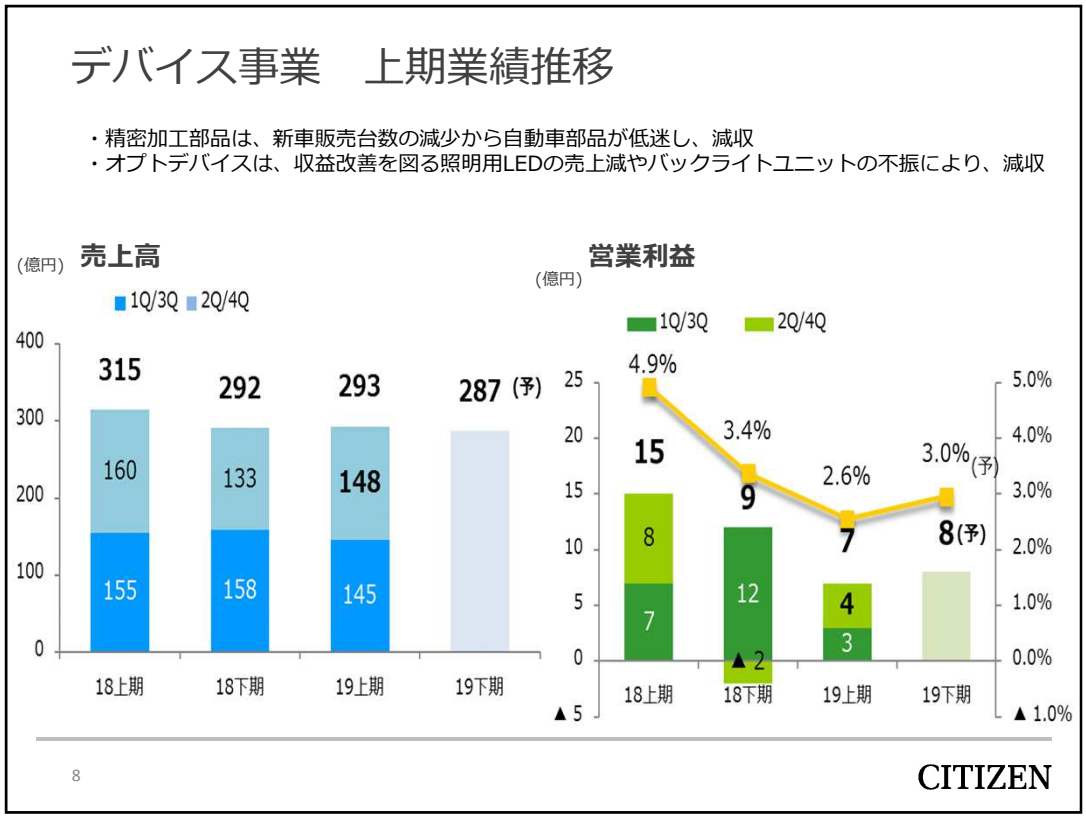
次に、工作機械事業について、ご説明いたします。

設備投資需要は減速傾向が継続し、好調であった前年からの反動もあり、減収減益となりました。

海外市場のうち、欧州は、中国市場向け自動車関連の低迷などにより減収となりました。米国は、全般的に設備投資への様子見姿勢が見られたものの、医療関連が伸び前年並みを維持しました。中国は医療関連が好調を維持し増収となりましたが、その他アジア地域では、景気低迷の影響が強く、減収となりました。
国内市場は、半導体関連や自動車関連の受注が軟調に推移した結果、減収となりました。

営業利益については、主に売上減少により、前期比減益となりました。

受注動向につきまして、第2四半期は、北米市場向けが高水準だった第1四半期からの反動もあり、前四半期比での受注額は減少しましたが、下期は第1四半期並みの受注水準を見込んでいます。
欧州はユーロ安という環境の中、製品価格が割高になっていることから価格調整を行い梃入れを図っていきます。中国アジア地域は、普及価格帯機種へのLFV搭載を開始するなど、新製品を投入しています。それと同時に、売れ筋機種の在庫を厚めにすることで比較的苦手とする短手番大口注文へも対応していこうと考えています。国内市場は、主に更新需要を喚起するような販売促進策を打っていく考えです。



次に、デバイス事業について、説明いたします。

精密加工部品のカテゴリーでは、自動車部品は、中国を始め世界的な新車販売台数の減少を受け減収となりました。
スイッチは、中国向けは好調に推移したものの、サイドスイッチの搭載機種減少が継続したことによる韓国向けの売上減もあり、減収となりました。

オプトデバイス関連では、照明用LEDは不採算モデルの削減を徹底して進めたため、減収となったものの黒字転換しております。
一般LEDは、車載向けの需要が減少しましたが、電子機器向けなどが伸び、増収となっております。
バックライトユニットは損益改善に努めたものの、営業損失となりました。

結果として、営業利益は、主に自動車部品の売上減少を受け、減益となりました。

2019年度　下期及び通期連結業績予想

（単位：億円）	2019年度前回予想		2019年度今回予想		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,587	3,050	1,605	3,050	+18	+0
営業利益	88	160	102	160	+14	+0
営業利益率	5.5%	5.2%	6.4%	5.2%	-	-
経常利益	105	180	121	180	+16	+0
親会社株主に帰属する四半期純利益	65	115	79	115	+14	+0
為替レート	¥105/USD ¥120/EUR	¥106/USD ¥121/EUR	¥105/USD ¥120/EUR	¥107/USD ¥121/EUR	-	-

9　CITIZEN

冒頭にお伝えしました通り、全体の業績予想は前回発表時点から変更ありません。

なお、下期の想定為替レートも、USドルは1ドル105円、ユーロは1ユーロ120円と、変更はございません。

2019年度　セグメント別業績予想

売上高

（単位：億円、％：営業利益率）	2019年度前回予想 下期	2019年度前回予想 通期	2019年度今回予想 下期	2019年度今回予想 通期	前回予想比増減 下期	前回予想比増減 通期
時計事業	868	1,600	876	1,600	+8	+0
工作機械事業	300	620	311	620	+11	+0
デバイス事業	291	581	287	581	▲ 3	+0
電子機器事業	97	189	100	189	+3	+0
その他の事業	31	60	30	60	▲ 0	+0
合計	1,587	3,050	1,605	3,050	+18	+0

営業利益

時計事業	70 (8.1%)	112 (7.0%)	77 (8.8%)	112 (7.0%)	+7	+0
工作機械事業	40 (13.3%)	88 (14.2%)	42 (13.6%)	88 (14.2%)	+2	+0
デバイス事業	6 (2.1%)	16 (2.8%)	8 (3.0%)	16 (2.8%)	+2	+0
電子機器事業	2 (2.6%)	5 (2.6%)	6 (6.3%)	5 (2.6%)	+3	+0
その他の事業	1 (4.8%)	3 (5.0%)	1 (3.4%)	3 (5.0%)	▲ 0	+0
消去又は全社	▲ 32	▲ 64	▲ 32	▲ 64	▲ 0	+0
合計	88 (5.5%)	160 (5.2%)	102 (6.4%)	160 (5.2%)	+14	+0

CITIZEN

通期のセグメント別業績予想につきましても、前回予想から変更はございません。

トピックス

シチズンマシナリー、中国工場を移転・拡張

中長期的に拡大が見込める中国市場に対する安定供給体制を整備。

新工場建設により中国市場向けCNC自動旋盤の生産能力を倍増する。

所在地：中国山東省淄博市

稼動開始：2021年2月（予定）

生産能力：月産最大350台

投資金額：約28億円

CITIZEN

最後にトピックスとして、昨日リリースしたシチズンマシナリーの中国工場移転、拡張の件についてご説明いたします。

現在、中国市場は足元で需要の低迷が続いておりますが、自動化、省人化ニーズが高まり、中長期的な需要拡大が見込まれています。
今後、大きな成長が期待できる中国市場への安定供給体制を整え、大口案件への対応力を高め、販売拡大を目指します。
稼動開始は2021年2月を予定しており、2023年には、現在の倍の生産能力にまで引き上げる予定です。

CITIZEN

私からの説明は以上とさせていただきます。

貸借対照表

参考資料

（単位：億円）	2019年3月末	2019年9月末	前年度末比増減額
流動資産	2,589	2,435	▲ 154
現金及び預金	868	713	▲ 154
棚卸資産	982	1,063	+81
固定資産	1,549	1,563	+14
有形固定資産	896	912	+15
投資有価証券	399	404	+4
資産合計	4,139	3,998	▲ 140

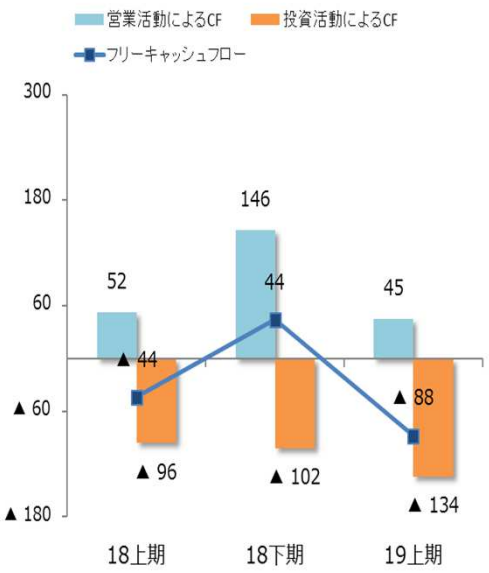
（単位：億円）	2019年3月末	2019年9月末	前年度末比増減額
負債	1,463	1,399	▲ 64
有利子負債	510	524	+13
純資産	2,675	2,598	▲ 76
株主資本	2,468	2,443	▲ 25
為替換算調整勘定	33	▲ 10	▲ 43
負債・純資産合計	4,139	3,998	▲ 140

CITIZEN

キャッシュフロー計算書

参考資料

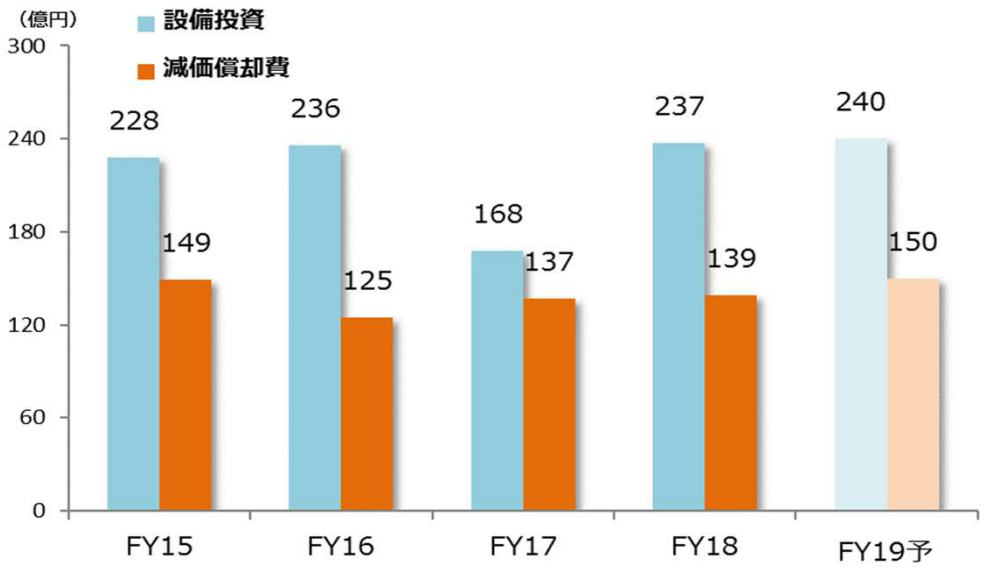
（単位：億円）	18上期	19上期	前年同期比増減額
営業活動によるCF	52	45	▲ 7
投資活動によるCF	▲ 96	▲ 134	▲ 38
フリーキャッシュフロー	▲ 44	▲ 88	▲ 44
財務活動によるCF	76	▲ 56	▲ 132
現金及び現金同等物残高	953	686	▲ 267



CITIZEN

設備投資・減価償却費

参考資料



CITIZEN